



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	国立環境研究所における災害環境研究の概要と今後の展開 - 環境回復研究の取組みを中心にして
Alternative_Title	An overview and future developments of research on disaster environment at the National Institute for Environmental Studies - As the main issue of the initiatives of the environmental recovery research
Author(s)	大原 利真(国立環境研究所) Ohara, T.(National Institute for Environmental Studies)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.122 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	企画セッション 2:「福島 of 環境回復に向けた環境創造センターの役割」
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109538
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



「福島環境回復に向けた環境創造センターの役割」

第1部 環境創造センター構成機関からの取組みの紹介

KS2-3 国立環境研究所における災害環境研究の概要と今後の展開

ー環境回復研究の取組みを中心にしてー

大原 利眞（国立研究開発法人国立環境研究所フェロー）

（福島支部研究総括、災害環境研究プログラム総括）

国立環境研究所は、東日本大震災と福島第一原発事故の直後から様々な災害環境研究に取り組む、被災地の環境回復と復興に貢献してきた。現在は、環境回復研究、環境創生研究、災害環境マネジメント研究の3つの研究プログラムを進めている。

環境回復研究では、放射性物質により汚染された地域の環境回復を速やかに進め、安全・安心な生活を確保するための研究を実施してきた。環境創生研究では、環境と調和した被災地の復興を支援するために、福島県新地町などにおいて復興まちづくり研究を展開するとともに、地域環境診断と将来シナリオの作成、省エネルギーな地域事業の設計、住民が参加する計画づくりなどに取組んできた。災害環境マネジメント研究では、将来の災害に環境面から備えるため、強靱な資源循環・廃棄物管理システムの構築、環境・健康リスク管理戦略づくり、それらを支える人材育成やネットワーク形成のための研究を進めてきた。

これらの研究の蓄積をもとに、2016年4月に福島県三春町の福島県環境創造センター内に国立環境研究所福島支部を開設し、福島県、日本原子力研究開発機構をはじめ、国内外の関係機関やステークホルダーと連携して、より一層現地に根ざした研究活動を進める予定である。本講演では、国立環境研究所が進める災害環境研究、特に環境回復研究の取組について紹介するとともに、今後の研究の方向性を示す。